圖解

量地指南前編

下

ム1
5275
3

戸川藏書

門 ム1
統 5275
巻 3

量地指南卷之三

勢南　處士　村井昌弘編述

量盤術廣狹法

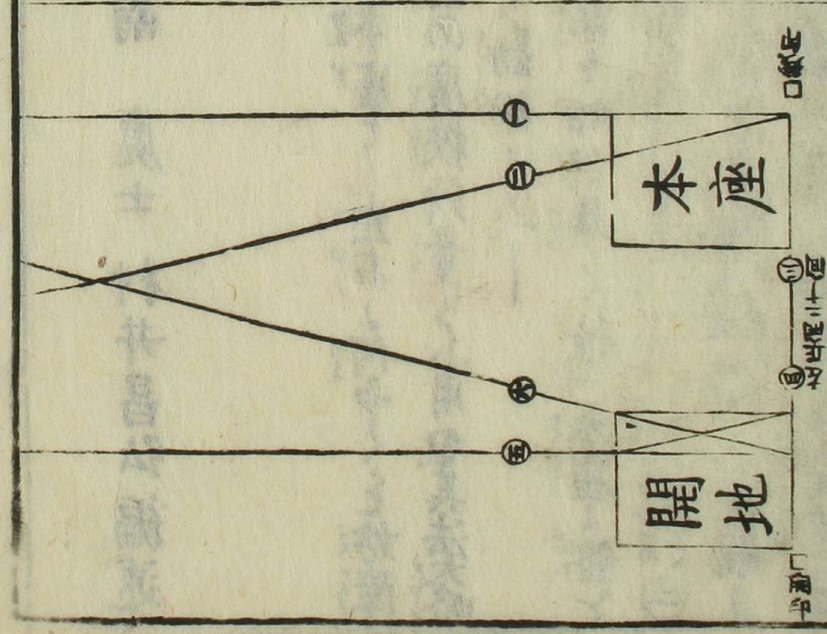
正面正開方

此術ハ。平原曠野の地形ハ本座より。左右ニ何ほどを妨障なく場所より。彼方正面の廣狹ハ量るハ用也。其法大略遠近術の左右開ニ據る。勘辨すべし

術云下ニ図ニ示ス作法のごとく品々始計畢る後。㊀本座ニ盤を方正ニ居。盤西より正ニ目的の左ハ見込目的の左ハ本座の右ハ見通ハ見返のごとく定規ニ其盤乾を要ふして斜ニ目的の右ハ見込ハ見通用地ニて定規ニ隨ひ墨糸引㊁左方へ正ニ間數ハ定る開地を求開印を立さゝく是を見通本座ニ殘印ハ立置㊃扨開地ニ迂り殘印を

再見〳〵盤坤方正ニ極㊄其盤坤を會ニ成〳〵ゞ盤坤を會ニ成ル

其作法の中を知るべし　盤北より斜ニ目的の左ゟ見返墨を引㊅今目的の左を見返さる墨の盤北の端を要ス一正ニ目的の右ゟ見返此見返角地と見返墨ゟ引然る時ハ盤の南北兩所ニ三四五の形ニ成る。盤面大成を今現ハ所の盤北の三ハ開除左正角二十間の縮なり盤南の三ハ求程



彼正面廣程の縮なり　右方の四ハ目的の左まゝゝの縮なり

左方の四ハ目的の右まゝゝの縮なり　其盤北の三ゟ開除の間數廿間ニ量合其矩角除の間數二十間の矩ハ盤南の求程の縮ゟ量ニ同変なり。同変ゟ即廿間なり是求程彼方正面の廣程二十間の間數と知るべし

大成之圖

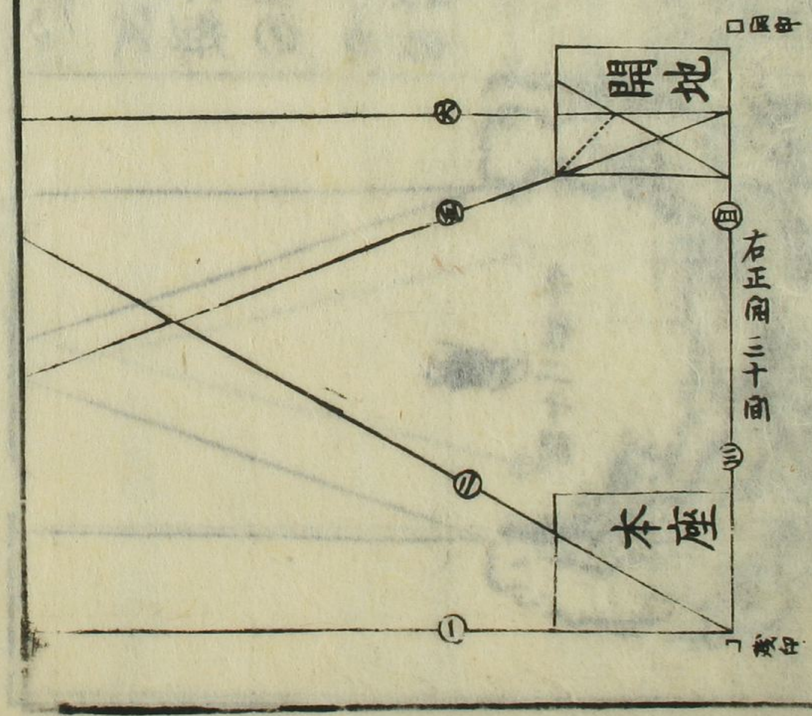
此又ハ左正角二十角ノ縮ナリ
此〇ハ求程二十間ノ縮ロナリ
今渾発ヲ以テ図ヲ一変ニ変ニ二十間ノ矩ト名ク其矩ヲ以テ〇ヲ量ルニ同変ナリ同変ハ即二十間也是求程ノ間數ナリ

斜面正開方

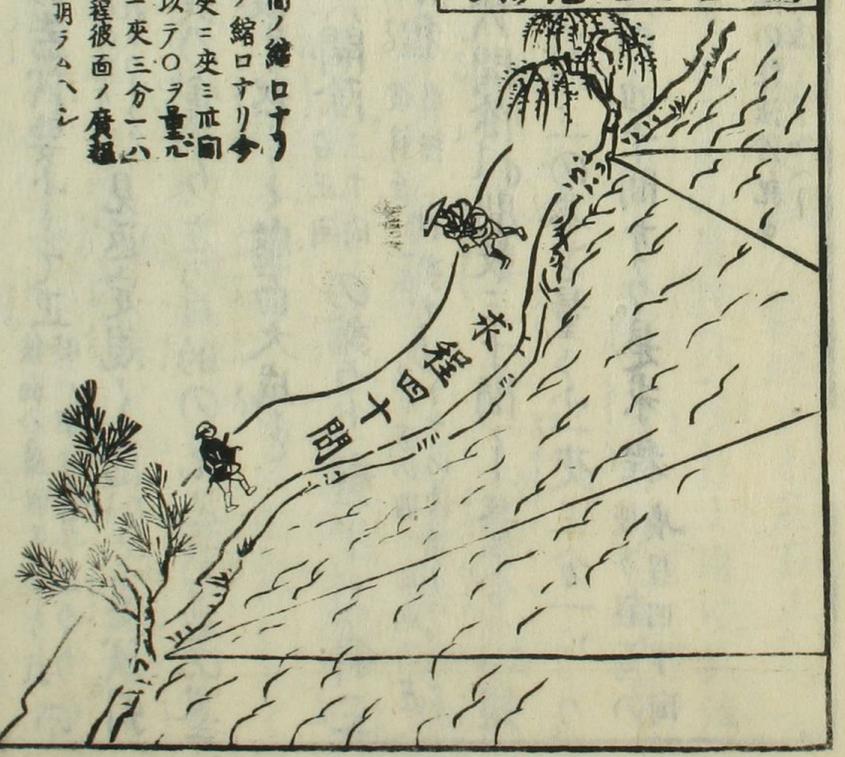
此術もゆる平原廣野の地より。彼方の斜面乃廣狹を量る不用。其法大畧前法（正面正開方）

小准知るべし

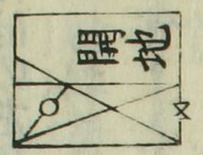
術云（下より図をもて云）作法乃おもく始計しそのち㊀本座より盤を方正より居。其盤東より正より目的の右を見込㊁盤良を要ふして斜より目的の左を見込



墨を引㊂右方へ正より開除を求（右正角三十間）開印を立さしむ。これを見通殘印を立置㊃開地より移り殘印を再見して盤を方正より極㊄其



大成之圖



此又ハ右正角二十間ノ縮口ナリ今此〇ハ求程四十間ノ縮口ナリ今渾然ヲ以テ又ヲ一夾ニ夾ミ此間ノ矩ト名ヲ其矩ヲ以テ〇ヲ量ル二一夾三分一有リ一夾三分一ハ即四十間ナリ是求程彼面ノ廣狹十リ猶本文ニ依テ明ラムヘシ

盤巽ニ会ふして。盤北より斜に目的の右に見返墨に引(六)其墨今目的の右を見返しく引くる墨なり の盤北の前に而に要ふして正彼面の廣程莫大なれ時ハ斜にも見返るり ふ目的の左に 目的の左ハ本座の右なり。前後の件々これに準ずべし 見返定規に隨ひて墨に引

(界)扨割盤法をもつて盤巽乃会より左の目的の見込見通の墨の会まで。斜ふ界を引渡し然して盤面大成さと

今現形所の盤北の三ハ開除右正角三十間 の縮なり。盤中乃斜三斜三とハ今割盤法に云ハ求程彼斜面廣程 の縮なり。左方の四ハ目的の左その遠縮なり。左方の四ハ目的の右その遠縮なり 其盤北の三に。開除れ間数三十間に量合其矩

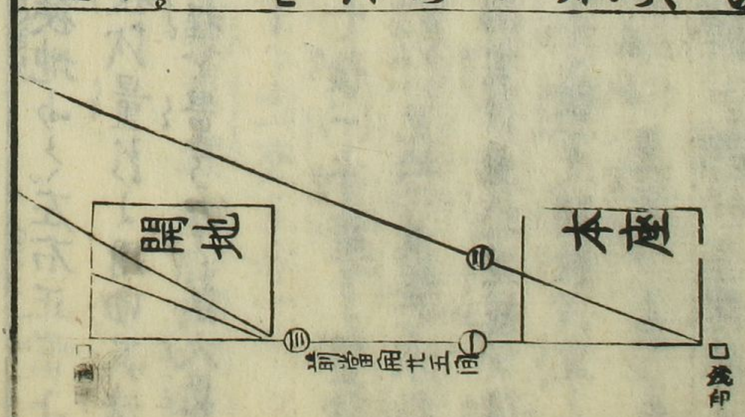
開除の間数三十間の矩 をもつて。盤中の斜三の界を量るふ。一変三分一なり。一変ハ三十間なり 三分一ハ十間なり 一変三分一ハ即四十間なり。是求程彼方斜面の廣程四十間 の間数なり

正面前後方 爰ふハ前面角の作法に記を後面も是に准して知べし

此術ハ本座の地形窄道堤防等乃狭地ふ。左右正面ふ開除叶ひ難き場なり。彼正面の廣狭に量形に用ゆ。其法開地に前後へ進退して求め然して求程を量るなり。大畧遠近術前後開の格ふ同じ。配合まべし

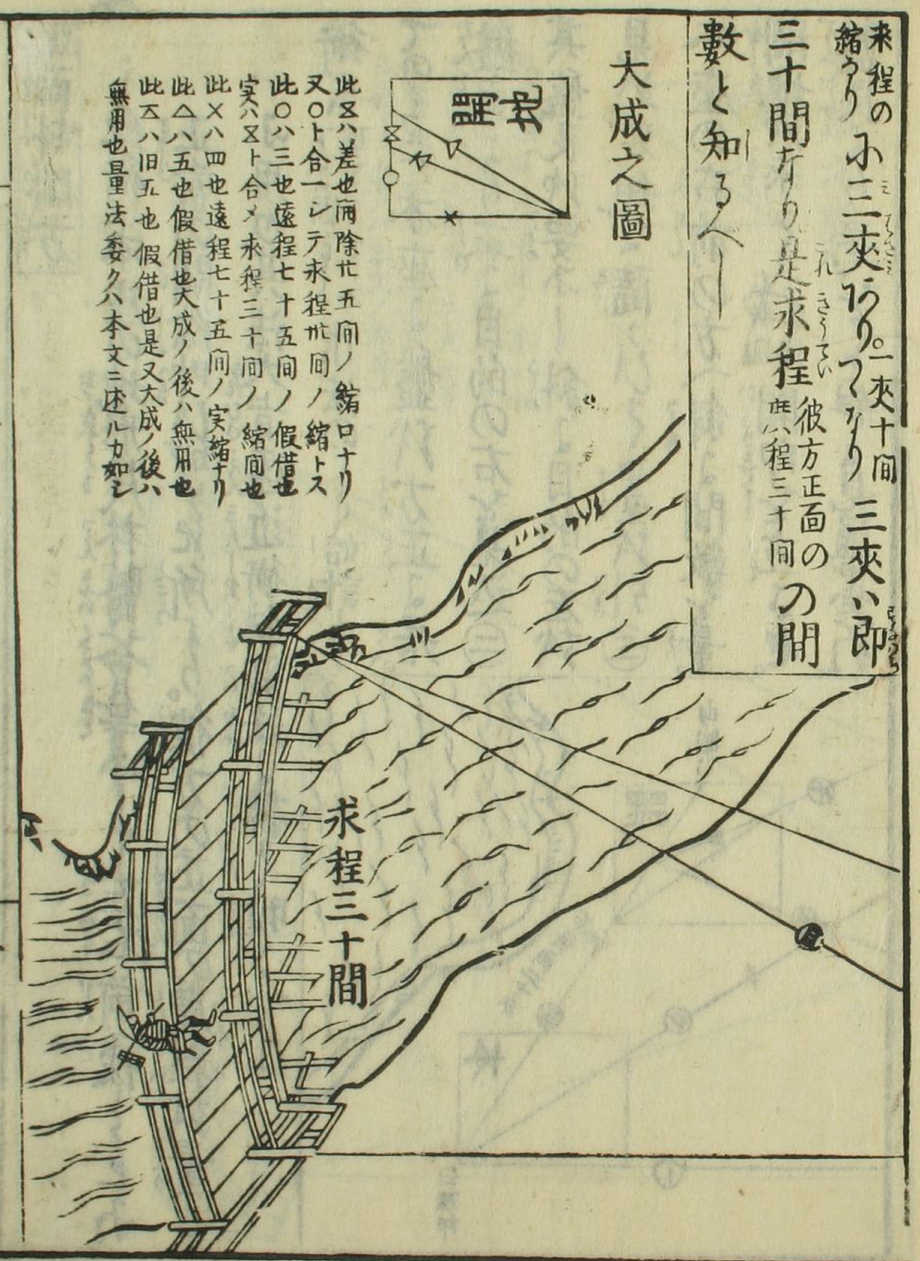
術云下に図をもつて云 作法のごとく品々始計して後(一)本座に盤に方正に居。盤東より正ふ目的の右に目的の右ハ盤の左なり 見込(二)其盤を示指ふ居置。盤艮を要して斜に目的の左に見込。定規に隨ひて墨に引。本座に殘印に立。夫より正に彼方へ間数に定く開除に求め 左右へ開除叶ハ退く求るも其術いかん 進て求ふ 見通印を立べし。目的の右と。盤東の定規と。此印と。三所一條に成て念に入 (三)開地に立置べし。尤見込の條なり。別に見通と為ふ及ざれなり (四)迂り。殘印に再見して盤を方正に極。此所より念の為ふ目的の右と。正に見込さもつて目的の右と。盤艮に要ふて斜に目的の左に見返墨に引。然もるとハ

三四五の形現いまし。盤面大成を今現ぜる所の。三ハ求程彼正面廣程の縮なり。五ハ假借の四ハ種子本座より目的の右まくの遠程の縮なり。差ハ開除前當用廿五間の縮口なり。扨其差口を以開除の間數廿五間を量合其矩をもつて。三三ハ元来彼面の縮口なれども。假に差口と合して本座より目的まくの遠程となし。是を用ひ種に用ひ。を量るに二変なり。其上に差口乃廿五間を加倍〳〵假に七十五間と知り。是を四に名づるの種間とし。扨新矩を設て。四を其種間七十五間に量合。渾発をもつて。此四を十間の矩とし。其矩をもつて。再度三を量る。此三を初度と後度と兩度量るなり。初度ハ目的まくの假の遠程に用ひ。後度ハ求程の間數に用ひ。元来此三ヶ



来程の縮なり。扨三変なり。二変十間三変ハ即三十間なり。是求程彼方正面の廣程ハ程三十間の間數と知るべし

大成之圖



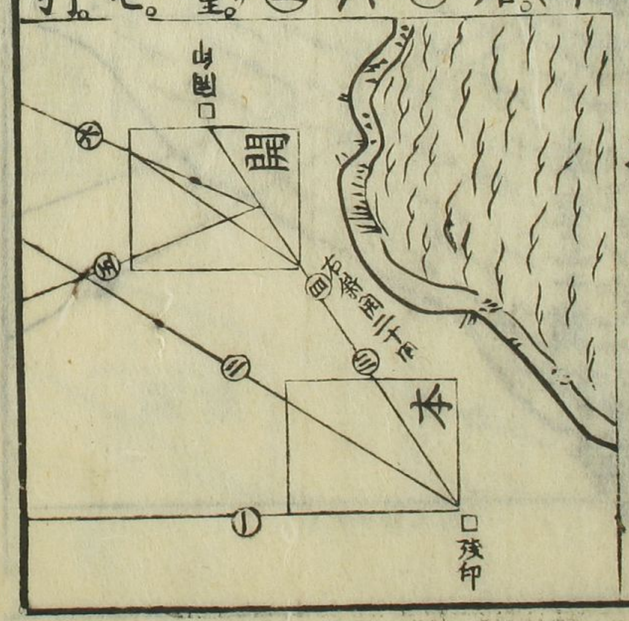
此ヌハ差也兩除廿五間ノ縮口ナリ
又○ト合一シテ求程廿間ノ縮トス
此○ハ三也遠程七十五間ノ假借也
実ハヌト合メ求程三十間ノ縮間也
此×ハ四也遠程七十五間ノ実縮ナリ
此△ハ五也假借也大成ノ後ハ無用也
此ヌハ旧五也假借也是又大成ノ後ハ無用也量法委クハ本文ニ述ルカ如シ

正面斜開方

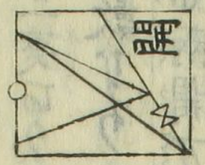
此術ハ本座の地形茂林藪薮等ホして。左右前後ゝとゝ。正當の開除叶ひがゝた所より。彼方の正面の廣程を量る ホ用ゆ其法大旨遠近術斜開法ヨ擄ゝ曉ヨべし

術云 下ヨ図ニ依テ作法のゝゝ始計し

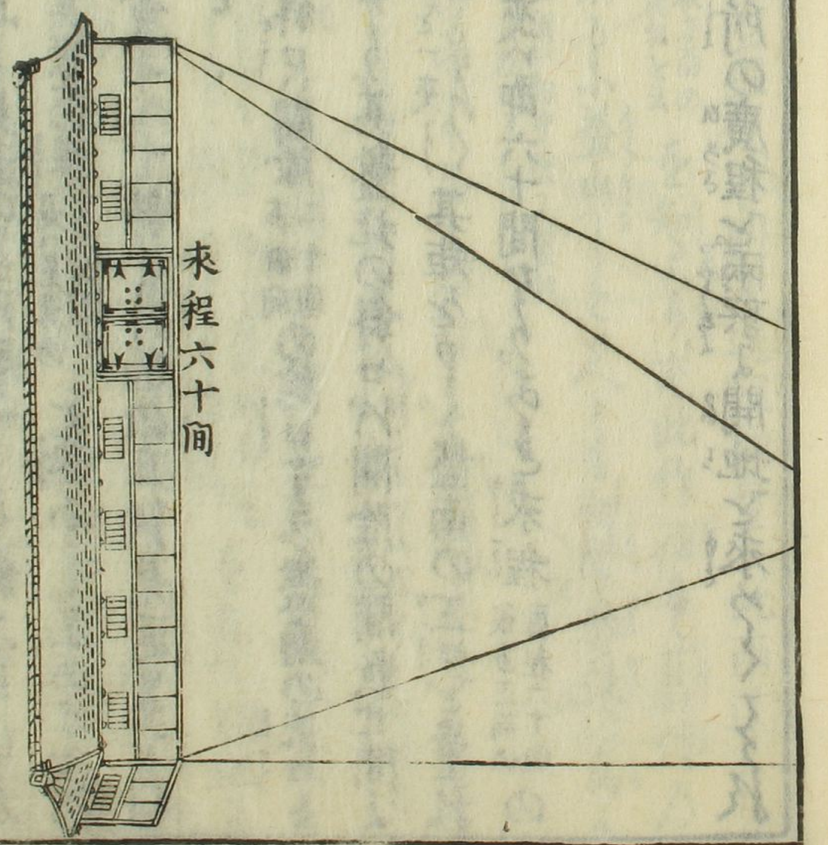
てのち㊀本座ヨ盤ヲ方正ヨ居。盤東ゝり正ヨ目的の右を見込㊁其盤艮ヲ要ホし斜ヨ目的の左ヲ見込。定規ヨ隨ひゝく墨ヲ引㊂本座の右前の方へ斜ヨ間數を量。開地ヲ求ゝく 右斜間二十間 開印を立さる。盤艮ゝり是をゝと斜ヨ見通墨を引。



大成之圖



此ヌハ右斜間二十間ノ縮口也
此○ハ求程六十間ノ縮間ナリ
ヌヲ以テ○ヲ量ルニ三夾有リ
三夾ハ即六十間ナリ是求程ノ
間數ナリ 委クハ本文ノ如シ



本座ヨ殘印ヲ立㊃開地ホ至テ殘印ヲ再見シテ盤ヲ方正ヨ居㊄其盤巽ヲ會ホシ見通の墨ヲ要ホシ〳〵斜ホ目的乃右ヲ見返墨ヲ引㊅其墨の要（是ハ見通の墨の要ろり）を要ホシ左の見込の墨乃盤南の端ヲ會ホシテ斜ヨ目的の左ヲ見返墨を引。然シテ盤面大成ヲ

今現ヲ所の盤北の斜ロハ開除（右斜角二十間）の縮ロなり。盤南の正ロヲ求程（彼正面廣程）の縮間なり。其盤北の斜ロヲ開除の間數廿間ヨ量合（渾発をこめ〳〵此斜ロを一変ろ〳〵其矩をめ〳〵盤南の正ロを量れ変ミ是ヲ廿間の矩となりく）ヨ三変ろり。（一変廿間）てろり三変ハ即六十間なり。ろを求程（彼方正面の廣程六十間）の間數なり

一知兩開方

此術ハ彼面一ヶ所の廣程を兩取ヨ開地を求めるれ

術なり。其法目的の左右へ各別ヨ遠程ヲ量り此兩遠程を種〳〵求程（彼方面の廣程を云）を知るろり。尤此作法を舊傳乃鑿説ホシ〳〵用ろホ益少シとハ云とも初學參考の為ヨ姑ころヨ贅ヲ（此術ハ初中後ヨ盤ヲ三度改てろれなり）

術云（下ヨ図ヲ取をめ〳〵云）作法のホ〳〵品々始計シテ後㊀初㊀本座ヨ盤ヲ方正ヨ居盤東ヨり正ヨ目的の右ヲ見込（前ヨもて〳〵目的乃右ハ即本座の左ヨ知る）

㊁右方へ正ヨ開除（右正面三町）を求め開印を立て是ヲ見通本座ヨ要印（此印毎例の殘印ろるとも初中後三度の術共ヨ此印を肝要となるとも故ヨ假ヨ名づけてろり）を立㊂開地ヨ辿り再見シテ盤を方正ヨ極め㊃盤巽を會ホシ（かくのごくの術盤巽と會ヨ〳〵べしとハ云ハ〳〵爰ヨ図ヨろうつ〳〵）其目的（目的の右を云）を見返墨ヲ引然れとも三四五の形ヲ〳〵ろる即其三を開除の三町ヨろろと合其矩をめ〳〵四を量ろヨ二変ろり（一変三町）てろり即目的の右の遠程

大成之圖

此ロハ右方ノ遠程六町ノ縮也
此ハハ左方ノ遠程八町ノ縮也
此ホハ求程ノ廣程六町ノ縮也
其量法本文ニ委ク記ス宜ク
勘合スヘシ

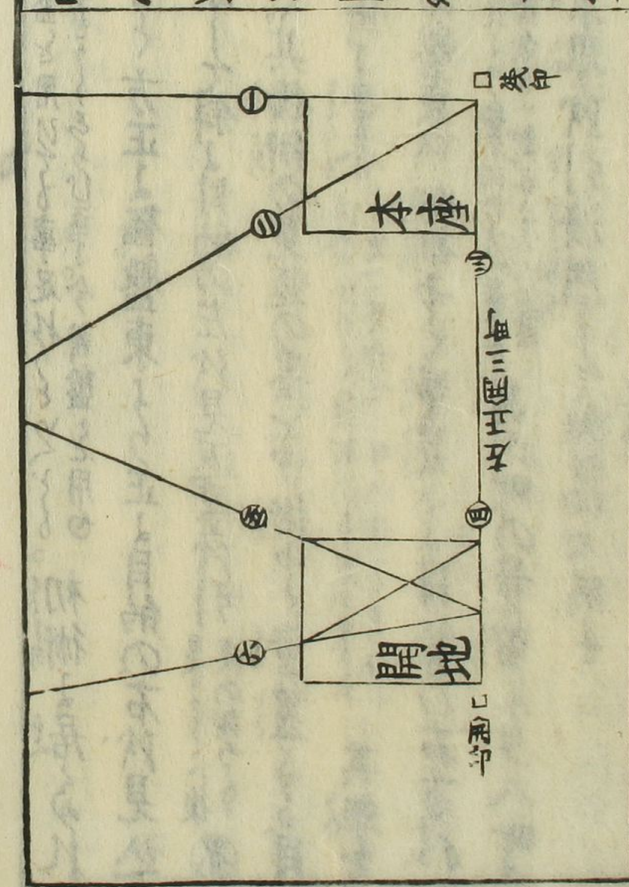
六町と知る。是まぐい初度の術にして目的の右方をそう然して其盤ゑ
ゑる蹤なり。此六町即求程ゑゑふ種なり
藏置此盤ハ目的の右方をそうゑゑ
ゑ合せゑ、方正ゑ居。初術ゑ用ひゑる盤を其侭用ゆる事よろしとゑ
ども。盤中の墨混しやすきゆゑ故ゑ今新盤ゑ用ゆ
盤東ゑう正ゑ目的の左ゑ目的の左ハ即本座の右なり見込。此見込実ハ正ゑあゑ然ども盤を斜ゑ居ゑる
故ゑ今見ゑ東ゑうして必ず正なり
(六)其盤西ゑう右方(正ゑ開除右正角四町)を求開印を
立ゑ是ゑ見通(七)開地ゑいそう要印此印前術ゑも用ゑる印ゑう を再見しゑ
盤ゑ方正ゑ極(八)盤巽を會ふして其目的目的の左とゑを見返墨ゑ
引然るときハ三四五の形ゑゑ。即其三ゑ開除乃四町ゑ
ゑゑと合。其矩をゑゑ四と量ふ二変まる。一夾四町てゑう 即目的の。
左の遠程八町と知る。是まぐい中度の術ふして目的の左方と量りゑる蹤なり。此十町即求程と量ゑる種なり
然して其盤ゑ藏置此盤ハ目的の左方と量ゑるかくれぐく目的
の左右の遠程ゑ量得ゑ後後(九)新盤ゑ用ひて此盤もまた。必新らしさふい

限らず。初術中術の盤と用ひそも事足りとゑども。初術ゑ居ゑ用ゆれ
初學のまぐして曉しやすゑうゑひ為に。今新盤を用ゆ
おゑく要印ゑ合せゑ方正ゑ極。盤東ゑう正ゑ目的の右ゑ見込
(十)其盤艮と要ふして斜ゑ目的の左ゑ見返墨ゑ引是まぐい八後度の術なり(界)
扨剳盤法ゑゆゑく。其後術の見返の墨と中術ゆゑ量置ゑる目
的の左方の遠程八町ゑ量合。渾発をゑゑ後術の見返の墨ゑ 其矩を
ゑゑく後術の見込の盤東ゑ。初術ゆゑ量置ゑる目的乃右方れ
遠程六町量取。盤北ゑう盤南の方(量取。其残余をハ剳ゑゑ不用) 其六町の量留ゑう八町
の墨の終へ小斜ふ界ゑ引渡。然して盤面大成を
今現ゑる所の見込ハ目的の右まぐれ遠程なり。見返ゑ目的の
左まぐくの遠程なり。今引渡ゑる小斜の界ハ彼面乃廣程なり。
其見込見返ゑ量ゑる矩ゑゆゑく。此界ゑ量ゑふ六夾なり。一夾一町てゑう
六夾ハ即六町なり。是求程の間數なり

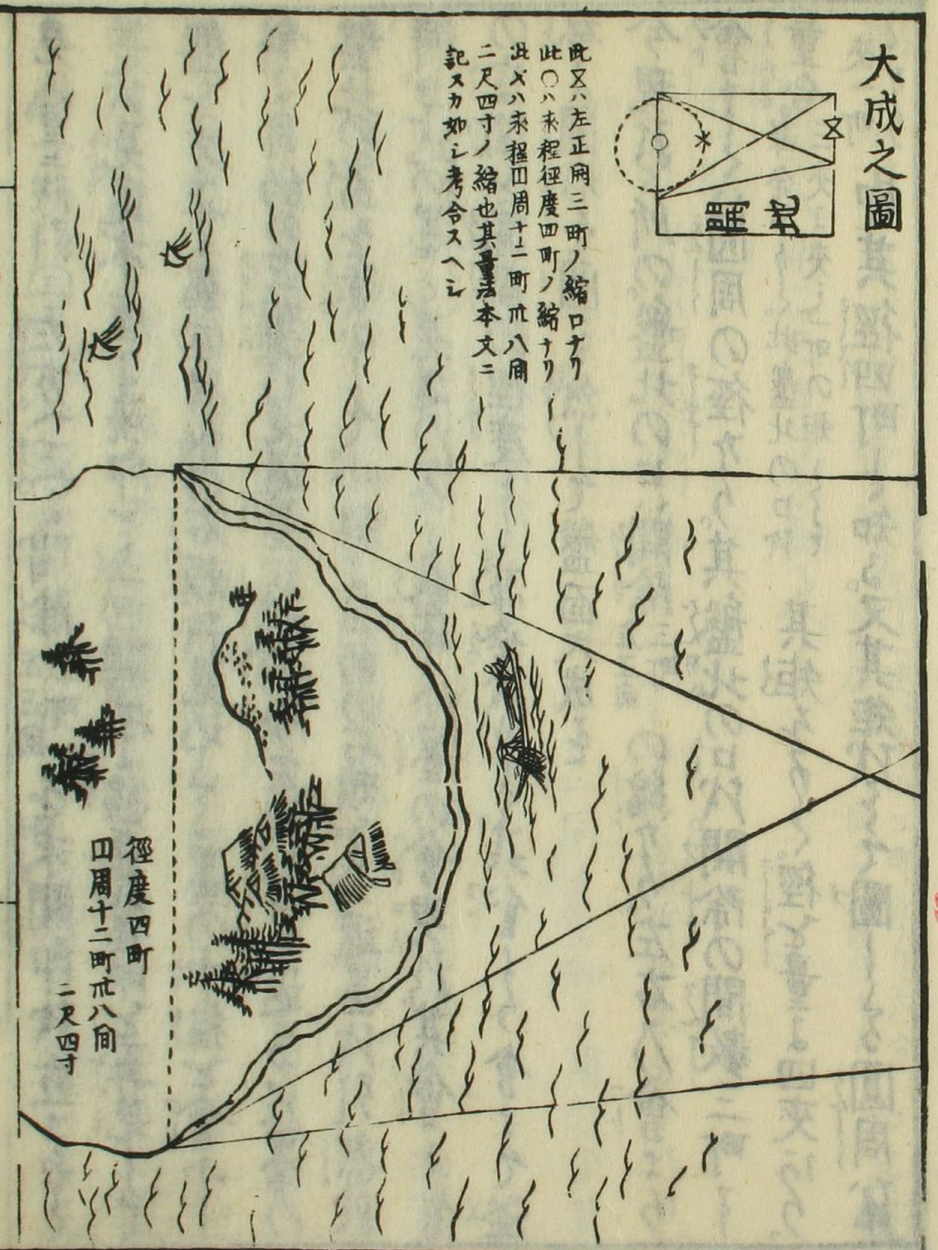
圓知正開方

此術ハ野外の村里海中の嶋嶼とべく彼所ニ在る所の圓周ハ量知るハ用也其法往々廣狹術ニ述る所とりく推知とべし聊異なる作法ハ術中ニ記す

術云（下ニ図ニ取とりて云）品々作法のごとく始計ちくのち（一）本座ニ盤ハ方正ニ居盤西より正ニ目的の左頰を見込（二）其盤乾を要ふして斜ニ目的の右頰を



大成之圖



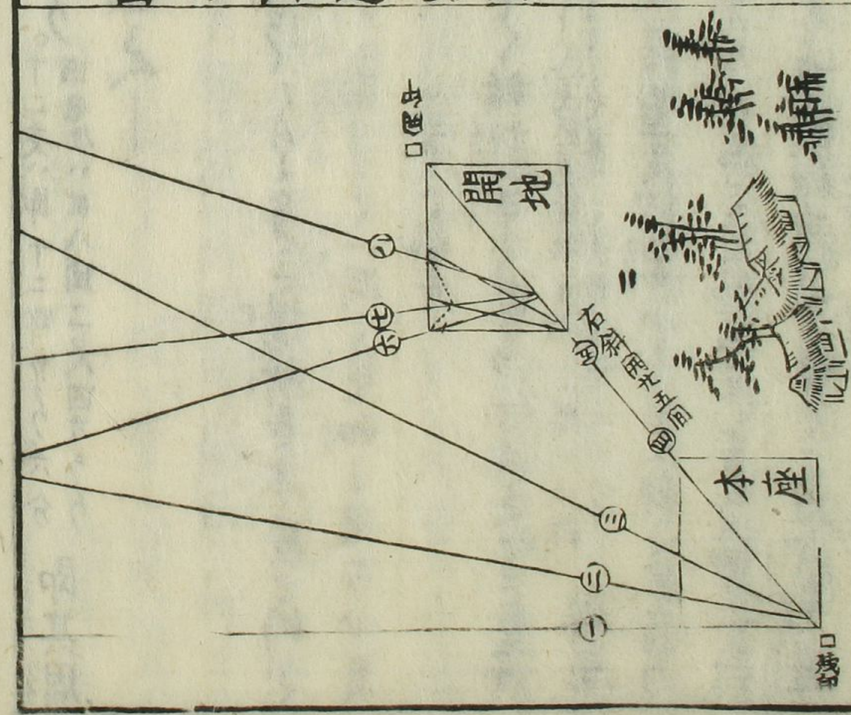
見込墨ニ引㊂左方へ正ニ開除（左正角三町）を求開印ニ立さゝく
是ニ見通本座ニ殘印を立㊃開地ニ移り其殘印を再見して
盤を方正ニ極㊄目的の右頰ニ見込こる墨の中程と會ふ
斜ニ目的の左頰ニ見返墨ニ引㊅今左頰を見返こる墨乃
盤北の端を要ふして小斜ニ目的の右頰を見返墨ニ引然れ
時見込の墨と見返乃墨と盤中小墨の會現ニ其會と會
の空間を圓周の徑度こゝ渾發ニ引こゝ其會こる會して溢
称ニ圓形を圖を然して盤面大成を
今現ニ所の盤北の口開除（左正角三町）の縮なり左右乃會より
會こゝ圓周の徑なり其盤北の口ニ開除の間數三町こ
量合渾発こゝ此盤北の口ニ（三夾ニ夾ニ一町の矩）其矩をこゝ徑を量ニ四夾ニ
一夾一町 即其徑四町と知る又其矩ニ立て圖こる圓周ニ

量ふ十二夾六分四釐ニ引こゝ（十二夾ハ即十二町なり六分四釐ハ五間二尺四寸なり）即其周
十二町五八間二尺四寸と知るべし

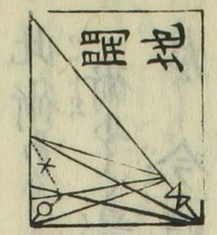
兩知一開方

此術ハ池沼叢澤等の凹凸こる多き場所を本座と為こ
彼面の廣狹數箇取ニ一開こゝ一同ニ量知ニ用ひ今其
二箇所を量こる作法ニ立こゝ爰ニ記を
術云（下ニ図こる所をとりこゝ云）作法のごこく始計畢てのち㊀本座ニ盤ニ
横ニ方正ニ居（こゝ此術のごこく見込見返數多なる時ハ盤を横ニなして居べし其作法前ニくり）盤東
こゝ正ニ目的の右ニ見込㊁其盤良ニ要ふこゝ斜ニ目的乃
中を見込墨ニ引㊂同所こゝ又斜ニ目的の左を見込墨を引
㊃右前へ斜ニ開除（右斜角用ハ五間）を求開印ニ立さゝこれニ見通
本座ニ殘印ニ立㊃開地ニ至り彼印を再見して盤を方正

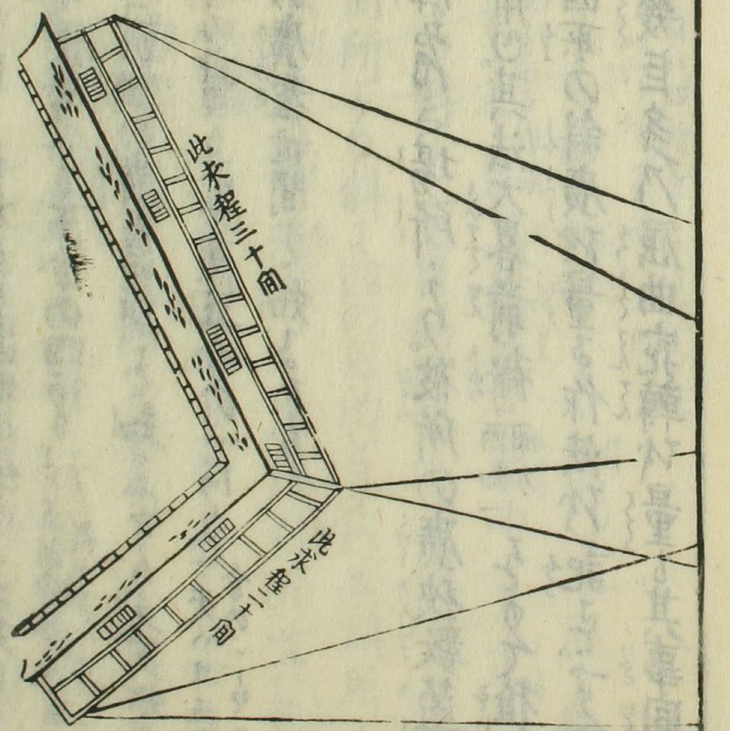
小極め㊅其再見の墨を要に〜盤巽位會ふ〜して斜よ目的の右位見返墨を引㊆其墨の要よ成り〜る所を要よ用て斜よ目的の左位見通墨位引㊇扨剗盤法をもく盤南よ現いまとめる。三所見込の墨と。三所見返の墨と。其會ふ〜會へ界位引渡ととさ。二所求程の縮形位〜いま。然〜て盤面大成ま



大成之圖



㊄八右斜距二十五間ノ縮口也
○八一二ノ廣程九間ノ縮口也
×八二三ノ廣程九間ノ縮口也
㊄ヲ以テ○ヲ量リ九間ヲ知ル
×ヲ以テ×ヲ量リ九間ヲ知ル
其審ナルヿハ本文ニ記ス



今現形所の盤北の斜口ハ開除（右斜間廿五間）の縮なり。盤南二所の界の斜口（今割盤法にて引渡しなり斜界）ハ永程（彼斜面廣程）二所の縮なり。其盤北の斜口を開除の間數廿五間と量合（此斜口を一夾と夾と廿五間の矩と名づく）其矩ハ如く。盤南二三の間ハ斜界を量るに五分の四なり。（廿五間の矩を五分とすれとき ハ其一分五間に當る然るハ則五分の四ハ廿間なり）即二三の間の廣程廿間と知るなり。又其矩に依て盤南二三の間乃斜界を量るに一夾五分の一なり。（一夾ハ廿五間五分の一ハ五間都合三十間也）即二三の間の廣程廿間と知るなり

四知一開方

此術ハ障碍場所なり。彼所の廣狹數箇所を一術に量るに用ゆ。其法大略前術（兩知一開方）をもて推知を以て今開して四所の斜廣ハ量る作法ハ記さず。すべて此理に據るときハ幾巨多乃屈曲宛轉ハ量も其事同じ

かるべし（後に記す所ハ四所を以て五所ハ五所七所とかくの如くなり。其術ハおのの）

術云（下に図を作法を記す）作法のごとく品々始計して後（一）本座に盤ハ横に方正に居（盤を横に居る作法往々前章に委く記す）其盤乾を要して正に一の目的ハ見込（二）同所より斜に二の目的ハ見込（三）同所より斜に三の目的ハ見込（四）同所より斜に四の目的を見込（五）同所より斜に五の目的ハ見込。各定規に隨ひて墨ハ引（六）其盤南より右方へ正に開除（右正角廿五間）を求め開印を立さるべく是を見通。本座に殘印ハ立（七）開地にいたり殘印を再見して盤を方正に極（八）其盤西より盤艮ハ會して斜に一の目的ハ見返。（九）今一の目的ハ見返さる盤西の墨の端を要して斜に二の目的ハ見返（十）同所より斜に三の目的ハ見返（十一）同所より斜に四の目的ハ見返（十二）同所より斜に五の目的ハ見返各

大成之圖

△六右正廂卅五間ノ縮口十リ
○八一二ノ廣廿間ノ縮口十リ
△八二三ノ廣十五間ノ縮口也
△八三四ノ廣九間ノ縮口十リ
×八四五ノ廣十間ノ縮口十リ
其量法巨細ハ本文ニ詳ルス
勘合スヘシ

定規に隨がひて墨縄引㊐扨剗盤法なりて五所見込の墨と。五耶見返の墨と。其會より會へ悉く界縄引渡一二の間。二三の間。三四の間。四五の間。界を引。是彼面銘々の廣なり　然しく盤面大成と

今現在所の。盤西の正口ハ開除右正間四五間の縮なり。盤東四所の斜界ハ剗盤法をもく彼斜面四所の廣程なり。其盤西乃正口縄引る界なり

開除の間數四五間に量合渾発をもく此正口を一夾に四五間の矩となづくべき事。たとへハ一〜さみ〜ろと矩と名るなり。其矩開除四五間を七夾に夾しかる五間の矩

なりく。一二の間の界縄量るに四夾なり。即其廣程九間なり。二三の間ハ界縄量るに三夾なり。即其廣程十五間なり。三四の間の界を量るに四夾あり。即其廣程二十間なり。四五乃間の界を量るに二夾あり。即其廣程十間なり。爰に於て四所乃廣程各自ふたつさつかなり

量盤術高深法

量深二術方

此術ハ山上に居て谷心の深程縄量り。城樓に登て郭外乃甲程縄知り。或ハ山河に棧橋を渡し。或ハ磯岸に井樓を上る等に用ひ。今其谷心の直立縄量る作法縄をもく爰に書と。餘ハ是に倣ひて知るべし　此術ハ初に遠近術を動て空徑の遠程とる。

後に又其座に高深術を動め。前後二術をかく其深程の全躰を量り知るなり。蓋に術中に記を

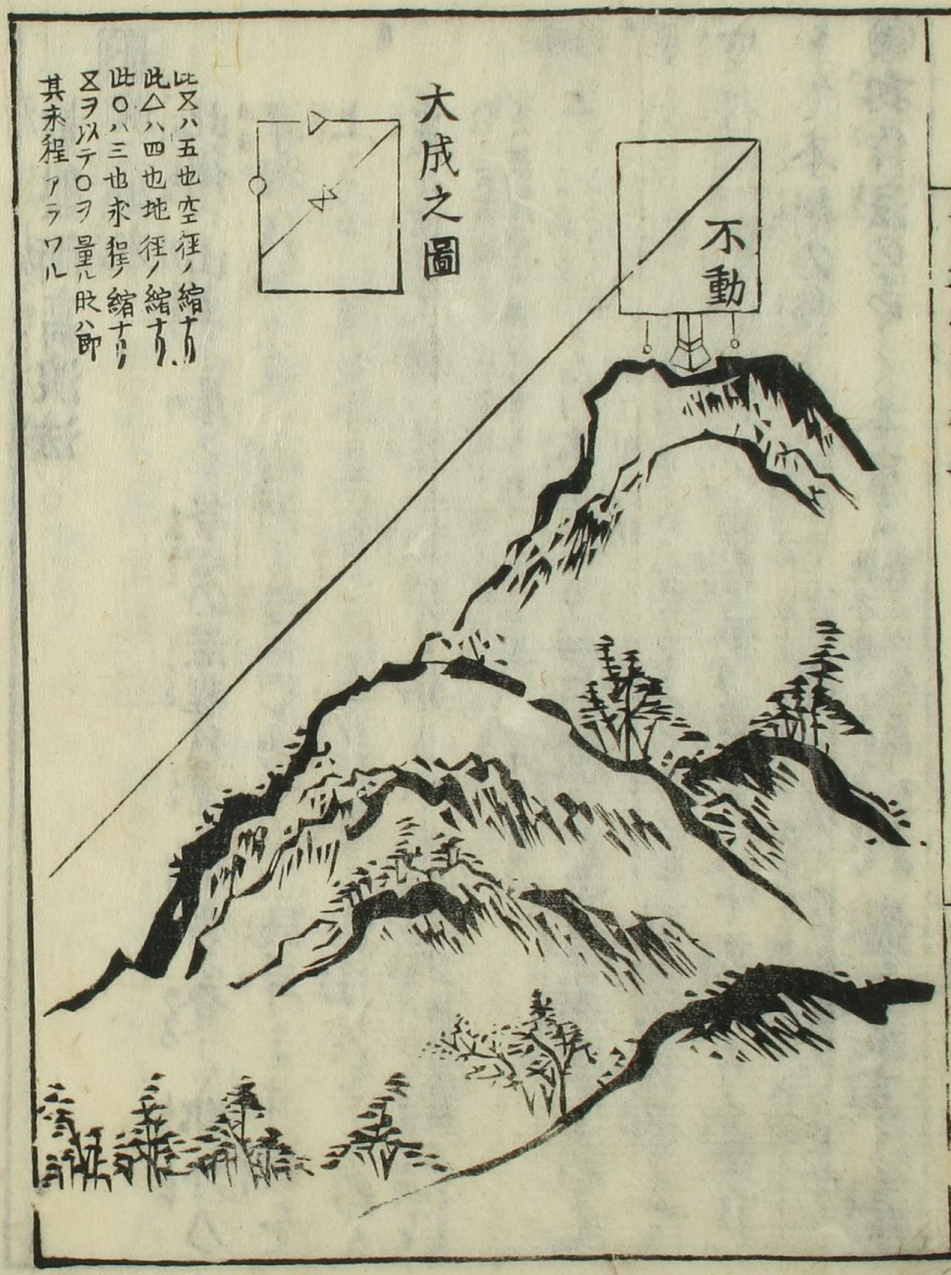
術云下に図をもく云まり本座より㊀初目的下の遠近術をもく。

目的下の遠近術とハ盤の彼を下を此を上々て遠近を量るなり。其くハ〜さ事ハ別巻に記を改に爰に其作法と不載　谷心の目的まて

空徑空徑とハ空中の指渡なり。地形の事に拘りなふ〜べ　の間數縄量るに八十丈なり。是縄

をて本術の種とす。右に所ハ空徑を量りて間數を得るまての法なり。故に八十間縄得て後ハ此盤を不用なり

㊀後扨作法のごとく本座に　此本座ハ目的下の術を動る座を即用る也　盤を直立に居



下之図もるごとく。盤北ハ上とし。盤南ハ下として居るゆえ。其盤東盤西ハ勝手のまゝにこゝもさうよ度し。爰ニハ盤西と彼し。盤東と此方として居るもの。稲くハしくハ初巻ニもるも定規ニ針を刺。盤良を要ふして。斜ニ谷心の目的へ見込墨ハ引。然もる時ハ三四五盤西ハ三〇。盤北を四〇。今引渡もる斜の墨ハ五ヽとの形現くるゆえ。盤面大成ると

今現形く取の三ハ求程谷心直立の深程の縮なり。四ハ地径本座と目的と両間地中の直径なり。五ハ空径本座と目的と両間空中の斜径なり。其五を種の為に目的下の術ゆ。量置る。空径の間数八十間に量合。盤中の斜の墨と八変に変じ。十間の矩と。勿論此斜墨ハ一変に変じる変じる十間の矩と名く其矩斜の墨と八変に変じる十間の矩をもて。彼三ハ量るに五変七分に当り。一変八十間に七分八七間なり五変七分ハ即五十七間なり。是求程谷心直立深程五十七間の間数なり或ハ其矩にて。四ハ量るハ地径の遠程なり。其矩にて五ハ量れハ空径の遠程と知べし

量深一術方

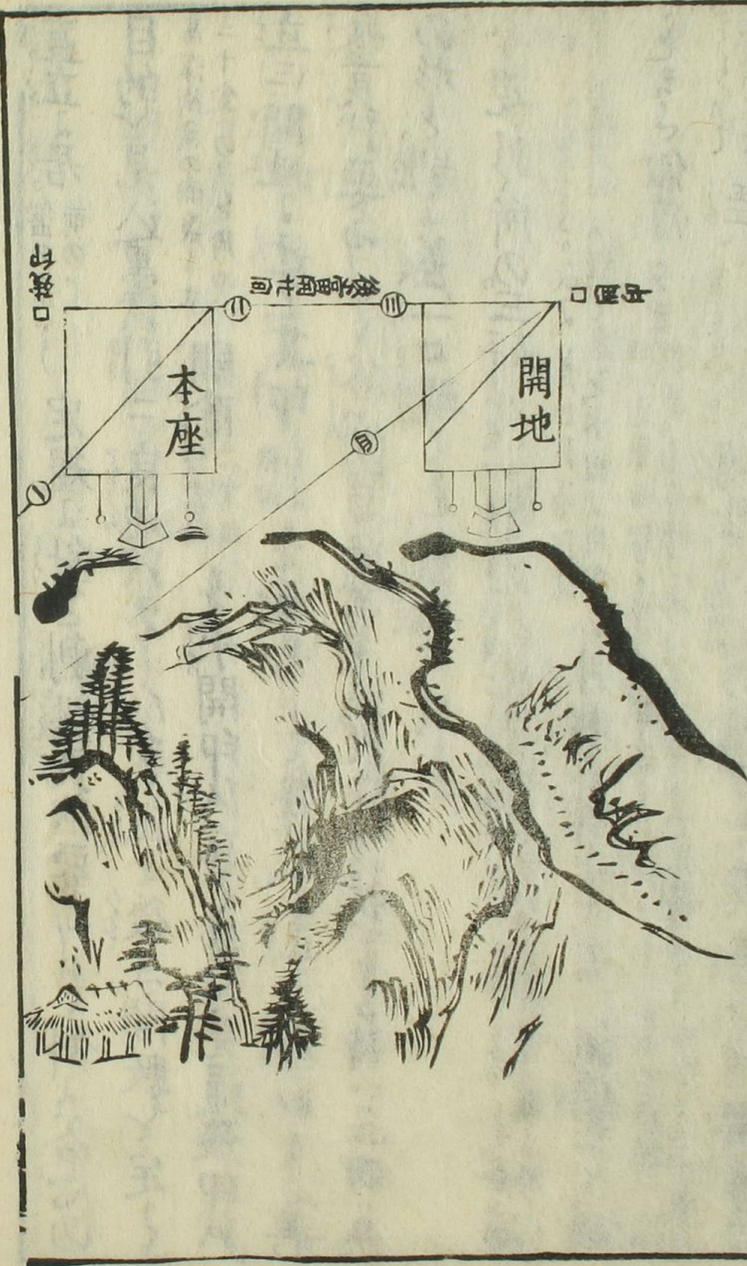
此術ハ前術量深二術方ゆ出る。但其用ハ一なりといへども。其法ハ異なり。前術ハ二術遠近術高深術をもて量り。此術ハ一術ハ一術ハ遠近術の前後開に准拠べし。つと為く知るなり。其大略遠近術の前後開に准拠べし。猶術中に巨細ハ記を照らし考べし

術云下に図を取とめく云品々作法れとく始計して後㊀本座に盤ハ直立に居。盤の居やう前のごとし定規に針を刺。盤良ハ要ずしく斜に谷心の目的を見込墨ハ引㊁良地ハ取えべく正に後き。間数を定く高深術同の間数も亦三十分一の法を用ゆ開除後当用二十間を求。開印ハ立く是を見通。残印ハ立㊂開地に迂る。其印残印を云を再見して盤ハ十分正に極㊃まと其盤良ハ要ずしく谷心の目的ハ見込墨ハ引。然ども持ハ三四五の形と。別に差一口現ると。盤面大成さと

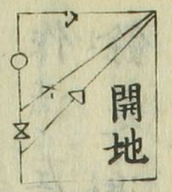
今現形く所の。三三く差口より上を号く。此縮口実ハ差口と合して。谷心の直立に。差口ハ省ひく。其術に随ふ時ハ。甚しく繫ること故に。差口ハ省ひく。其術に随ふ時ハ。爰に直立の深程と名き。求程に用ゆ

ハ求程の縮なり。五ハ假借に。四ハ元来假借にて。然ども本理にもとづく。ハ還て其術繫ること。假借と。差ハ差と三に。下をとる。開除後当用二十間の縮なり。其差口ハ開除の間数二十間に量合。差口を一変に変じ。其矩をもて。彼三本法に拠る時ハ二十間の矩と名く。其矩をもて。彼三と差を合して求程の間数に。然ども。それハ其法繫ること故に。今畧法を用ひ。差を加入せずして求程に量る。一変半なり。

一夾ハ廿間ナリ半夾ハ十間ナリ二夾半ハ即五十間ナリ。是求程谷心直立の深程五十間の間數ナリ或ハ其矩をカヽ四を量まハ本座ヨリ谷心まヽ地徑の遠程ナリ。其矩をカヽ五を量まハ本座ヨリ谷心まヽ空徑の遠程と知べし



大成之圖

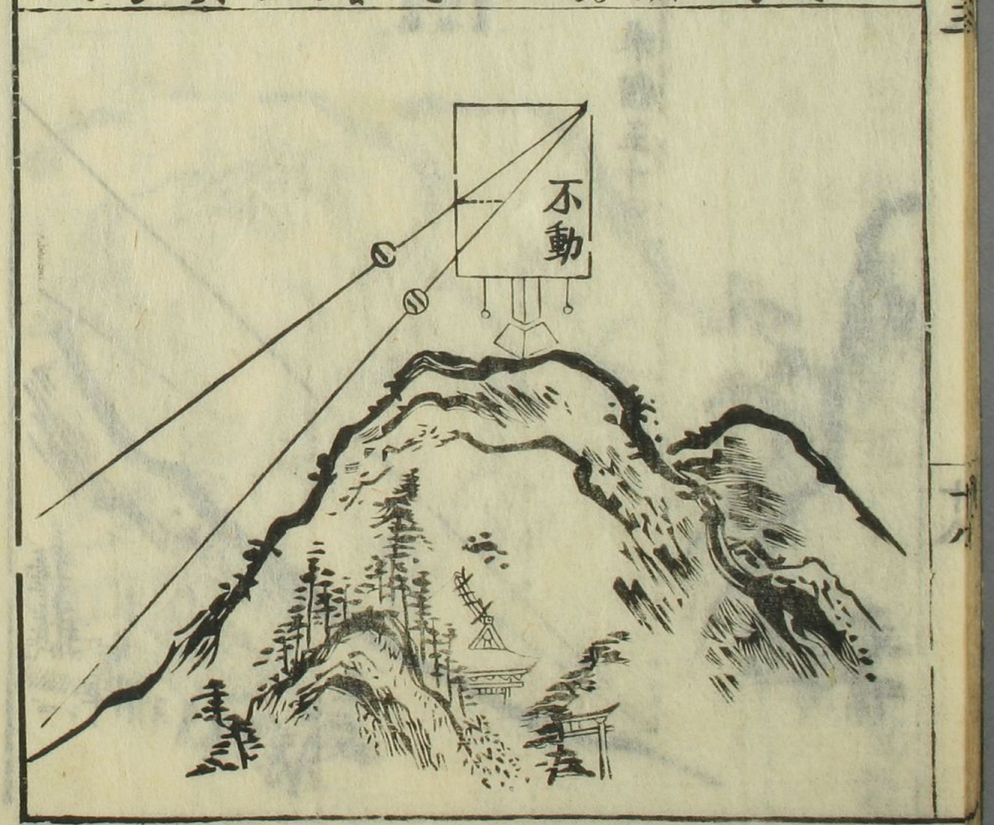


ヌハ差也兩除二十間ノ縮ナリ
○ハ三也求程五十間ノ縮ナリ
ヌヲ以テ○ヲ量ル時ハ其求程アラワル
ヌハ四也假借ノ縮ナリ実ハ地徑也
△ハ五也假借ノ縮ナリ実ハ斜徑也
×ハ新五也假借也大成ノ後ハ無用ノ縮ナリ

求程五十間

谷心量廣方

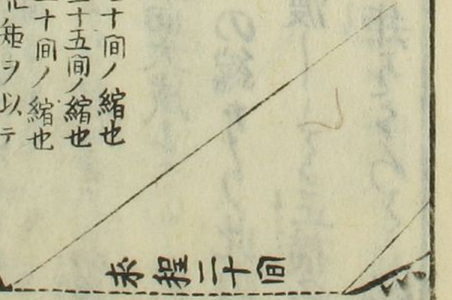
此術ハ峯峰ニ居て山間の谷幅を量。樓上より城外の堀幅を知る等ニ用ヒ。そべく高さ聚ゝ低さ地の廣狹を量る術なり。今爰ニ谷幅の廣程を知る作法を左ニ記す其餘是ニ准して知るべし。此量谷心廣方ハ目的下の遠迫術



を三度動く。彼此の禁下遠迫術を量知り。次ニ其聚ニ高深術をほどこす。其全体を量知るなり。前後三術をもく大成をと知べし

術云 下ニ図ニ聚をもく云 先本座より(初)目的下の遠迫術目的下の作法別章ニ詳ニ故ニ爰ニ不載 をもく。彼山ハ禁下(見込)空徑を量ル其間数七十間と知る(中)又同術をもて此山ハ禁下(見込)空徑ハ量る小其間数五十五間と知此山の禁下ニても。彼山の禁ニても。其一方の空徑ニても。量りても其術同事なりといへども。未熟の人の爲ニ。彼此を量りて知べき法を述此彼此の空徑を量る本術の種とも。是まで本座より彼山此山。両禁下まで空徑を量る別術なり。尤本術ニかくゝ故ニ其図其辞を畧して爰ニ不記 (後)扨是より高深術の作法をもて

大成之圖



ハ彼禁下空徑七十間ノ縮也
ハ此禁下空徑五十五間ノ縮也
ハ求程ノ地徑二十間ノ縮也
其ヲ量リタル矩ヲ以テ
ヲ量ル時ハ自ラ得ヘシ

此本座ハ。寓初ヨ遠迫術を
つくらるる場所ニ於ては
針を刺盤良ニ要ふして斜ヨ彼山の麓を見込墨ニ引㊀盤良
を要ふして斜ヨ此山の麓を見込墨ニ引㊁扨剌盤法ニ於
彼山乃麓を見込さる墨を目的下ヶ術ゆく量置さる空徑乃
間數七十間種の為ふ寓初量置さるる合。渾発をゆく。七変ふ変ニ十間の矩ニて其矩をゆく。
此山の麓を見込さる墨を目的下の術ゆく量置さる空徑の
間數五十五間是もまと種乃為ヨ寓初量置さるる を量取此山麓ハ見込の墨を上より下へ五十五間量取なり然ふして其残余をハ剌捨ふく不用なり 此墨の量留此の見込の墨五十五間量取さる留をとふるる彼墨乃留
彼の見込の墨の終りまぐく界を正横ヨ引渡し。盤面大成を
盤西の端をとふるる
今現ニ所の彼の墨、彼山の麓下まぐく空徑七十間の縮なり。此の
墨、此山の麓下まぐく空徑五十五間の縮なり。今引渡しさる正横の
界、求程山間谷心の地徑をヨ の縮なり。其空徑を量さる矩をふく此

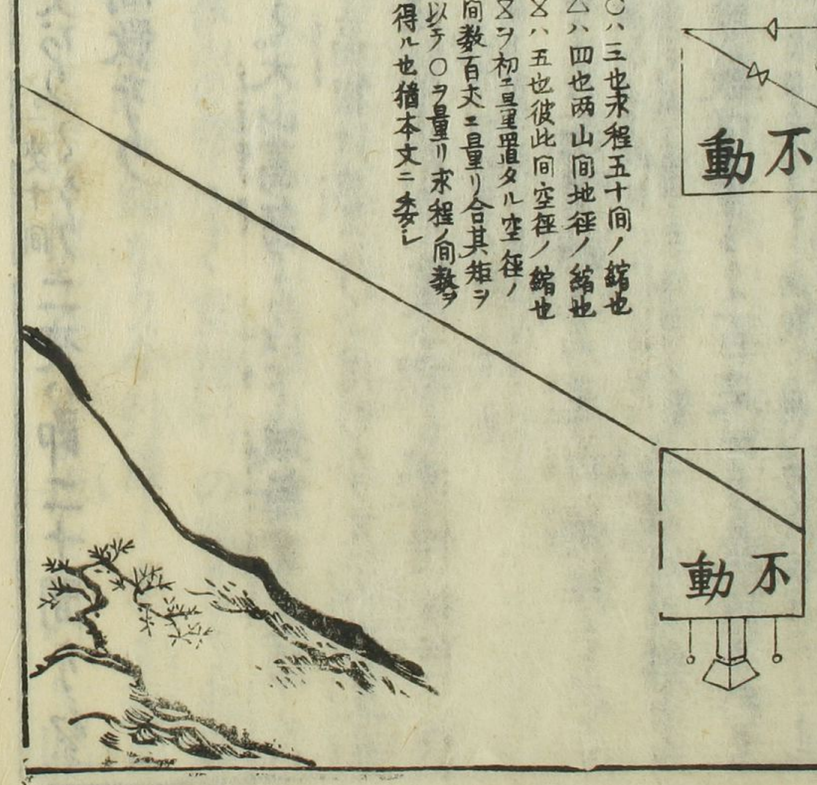
正横の界ニ於量ふ二変なり。二変十間 ふくなり 二変ハ即二十間なり。
是求程山間谷心の地徑三十間の間數なり

量高二術方

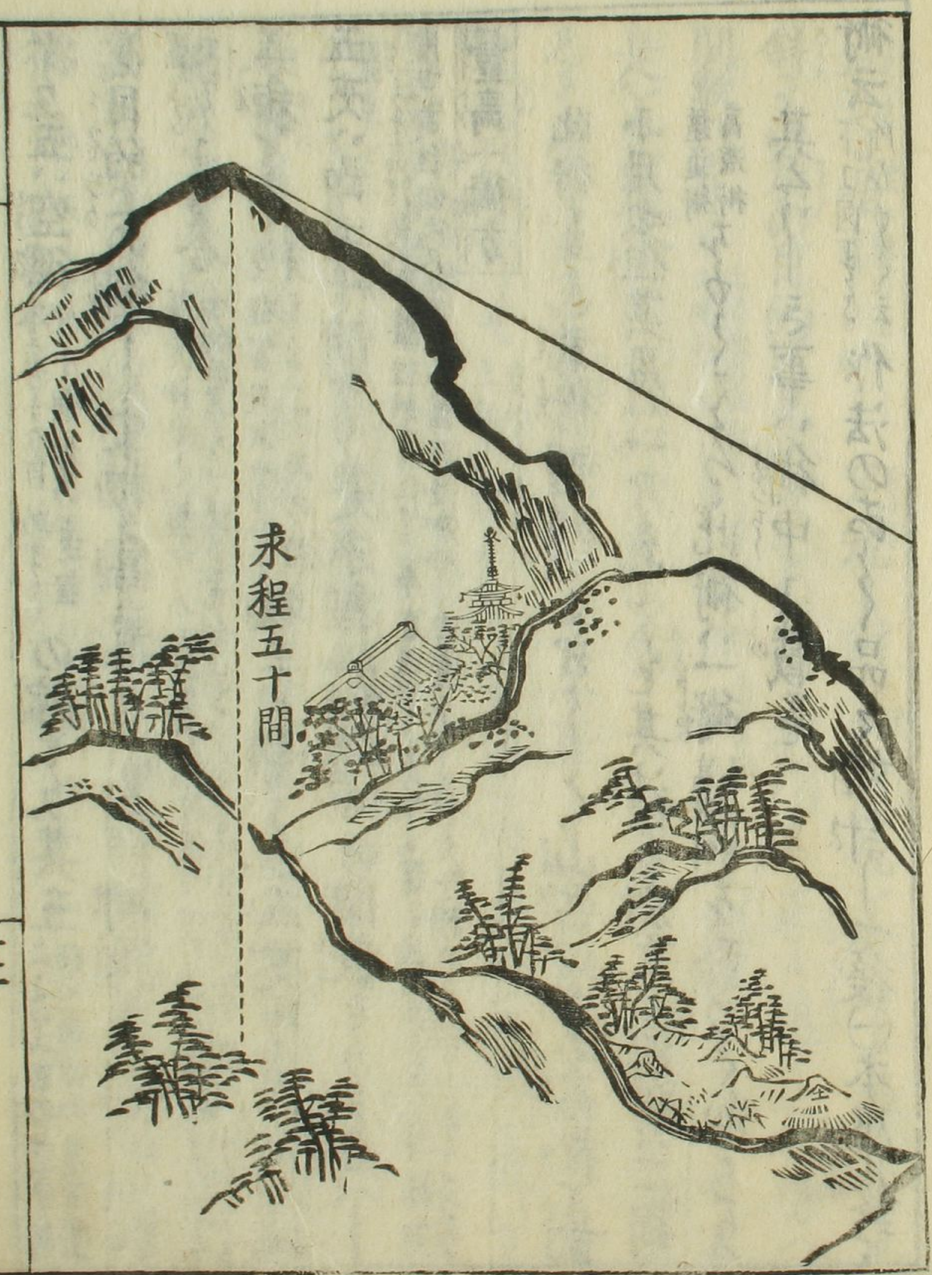
此術、平地ふ處ニて。大山高岳ふ以下城樓宮室ふ
堂塔樹竹等ふ。ふ高程ニ於量ふ。ふ用ひ。今其山岳直立
の高程ニ於量る作法ニ於ふく。爰ふ書ふ其他、推知す術
此術ハ。初ヨ遠迫術とゆく。其空徑を量り。後ヨ其ハ座
ゆく。高深術を勤。初後二術をもて全く量る法なり
術云下ヨ図ふ見をゆて云 まず本座ふ㊀初目的上乃遠迫術ニ於ふく
目的上の遠迫術とハ。盤の彼を上ヶ此ハ下ヶて遠迫を
量ふる。猶ハ。ふ事ハ別巻ヨ記す。故ヨ爰ヨ其作法を不贅 山頂の目的まぐく
空徑空徑とハ空中指渡の遠程をいふ前後徴之の間數ニ於量ふ百丈なり是ニ於ゆて
本術の種とふるなり。右ハ空徑を量ふる間數を得ふるのみ作法ふ。別用なり。故ヨ百丈を量得ふく後ハ。此盤ハ不用なり
㊁扨本座ふ此本座ハ即目的上の術を勤ふる座を用ふるなり盤を直立ふ居。盤の居やう前ヨ故ヨ畧ス

定規ヨ針を刺。盤乾を
會ふして盤東ヨリ斜
ヨ山頂の目的を見込。
定規ヨ隨ひ〻く墨を引。
然るとき此ハ三四五乃
盤東を三〻。盤北を四〻。
斜の墨を五〻。平陸術ニて
ハかろ〻ど見込ハ四ろまど。
山谷術ニてハ。何時し見込ハ
五と成ろう。山谷術の見込ハ。
平陸術の見返の〻ろなり
形現を盤面大成を
今現形所の。三ハ求程
山心直立の高程の縮なり。四ハ地
徑本座ヨリ目的地中直徑の遠程の縮

大成之圖



○ハ三也求程五十間ノ縮也
△ハ四也両山間地徑ノ縮也
ㅁハ五也彼此間空徑ノ縮也
ㅁヲ初ニ量置タル空徑ノ
間数百丈ニ量リ合其矩ヲ
以テ○ヲ量リ求程ノ間数ヲ
得ル也猶本文ニ委シレ



なり。五、空徑本座より目的まで空中斜徑の遠程の縮なり。其五上より下の空中斜徑の遠程の墨と以を目的上の術にて家初より量置る空徑の間數百丈種の爲より家初より量置る丈なり小量合。渾発ずかく。盤中の五の墨ず。十丈を一丈と十丈の矩となるべく。勿論此墨と一丈より量合ることなしとは。是ず百丈の矩となりけり。其矩をもて空徑百丈ず十丈を一丈と十丈の矩彼三ず量るふ五丈なり。一丈十丈五丈、即五十間なり是求程山心直立の高程五十間の間數なりと知べし。

高深術は斜盤法ずもくする事本法なりといえども還く數金る事はぶ略ず用也。前後倣之又小事より盤又を加入して量るべしふ差を捨るは大差となるべし

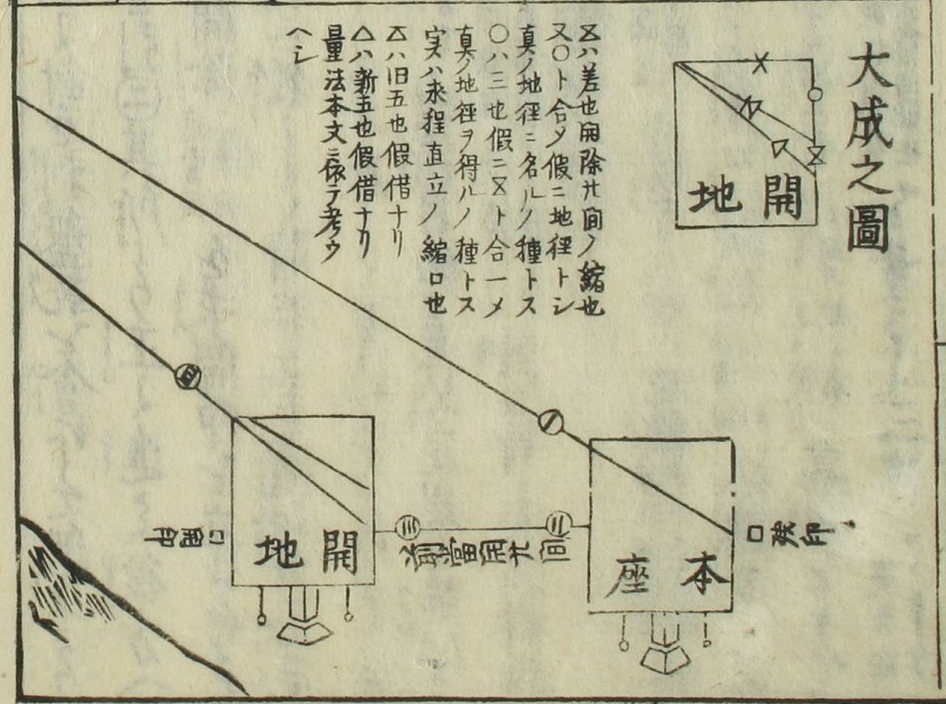
量高一術方

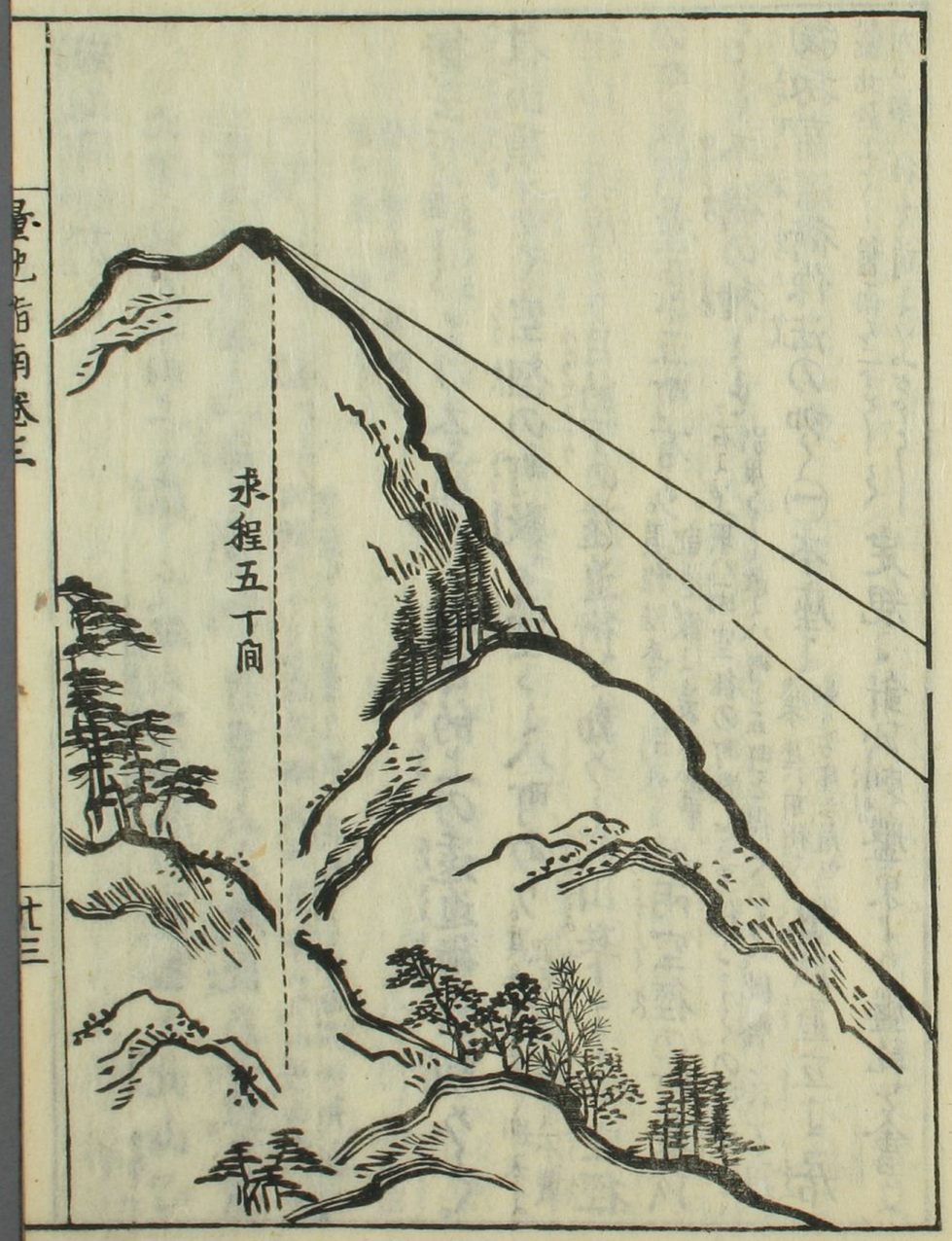
此術もまた前術量高二術方より記るとして。山岳以下の高程を量小用也。但其用い一なれども其法々別なり。前術は二術遠近術高深術をもくするに此術は一術高深術をもくを勤めて知るべし。其ふつゝき事い術中より載を術云下より図るべし所をもくる云作法のおもく品々始計して後一本座より盤を

直立より居。盤の居やう前まるかく定規より針を刺。盤乾を會にして盤東より斜より山頂の目的ず見込墨を引二其所より正より進む。彼方へ間數ず定る此間除の間數もまた大略三十分一を用也開除前當角二十間を求。開印を立さもなく是を見通本座より殘印ず立三然るに開地より至り。殘印ず再見もなく盤を直立ふ極四此所より本座にて見込るおもくふ。盤乾ず會ふして定規より針をもち上斜より盤より當て山頂の目的を見込。定規より隨ひて墨ず引此術。總して平陸術前後同の作法よりおなじ。然る時ら。三四五盤東を三〜盤北を四〜斜墨を五〜の形現る。盤面大成を

今現る所の三、求程山心直立の高程の縮なり。四、地徑彼此一映間の地中の直徑の縮なり。五、假借或又空徑の縮なり。差口、開除前當角二十間の縮なり。其差口ず開除の間數廿間より量合。差口を一丈と丈〜二十間の矩と名く其矩をもて彼三此三假より差口と合して假の地徑の間數と。真の地徑を量る種とも実ず求程の間數也を量る。三丈一丈廿間なり

なり。其上に差口乃二十間を加へば。都合八十間なり。是真の地徑（其地徑とハ盤四を指す）弗なき種なり。扨新に矩ゆくふきて。始に三と差とゆくふきて矩をハ不用にて。今まで四ゆく量る為に。別に矩ゆくふ四を地徑の八十間ふ量合。（新に渾発ゆくふきて。此四ゆくハ変に変て十間の矩と名く）其矩ゆく再度三を量るに三ハ初度後度二度量るなり。初ふハ差口と合して假の地徑八十間に用ひ。後ゆくハ求程の間数に用るなり五変有り。（一変十間なり）五変ハ即五十間なり。是求程山心直立の高程五十間の間数なり





兩山同知方

此術ハ此方の山上に處して彼山心直立の高程と此山心直立の高程と一同に量知に用ゆべく彼此乃高下を一術に量る法なり此術ハ遠迫術を兩度勤めて山頂山麓の空徑を求げ量り次に其座に高深術を勤む

前中後三術を以て全く量知る法なり

術云下に図を出す所のごとく云まず本座より㊀初目的上の遠迫術を勤むべし

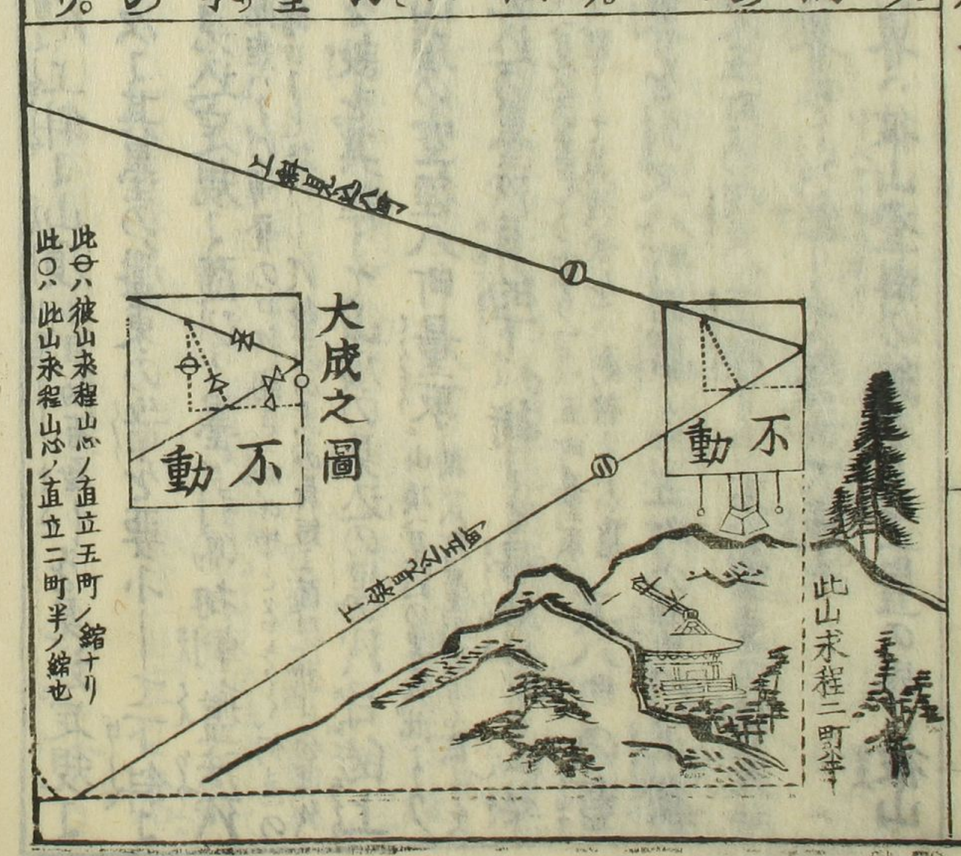
彼山頂すべく空徑の町數を量るに八町あり其作法委く別巻に記す故に爰に不載

㊁中ゆく其座より目的下の遠迫術を勤むべし此山麓すべく空徑の町數を量るに五町有り其作法委く別巻に記す故に爰に不載此兩空徑の町數を量得るまでの法なり故に八町と五町を得るのみ此盤をハ不用

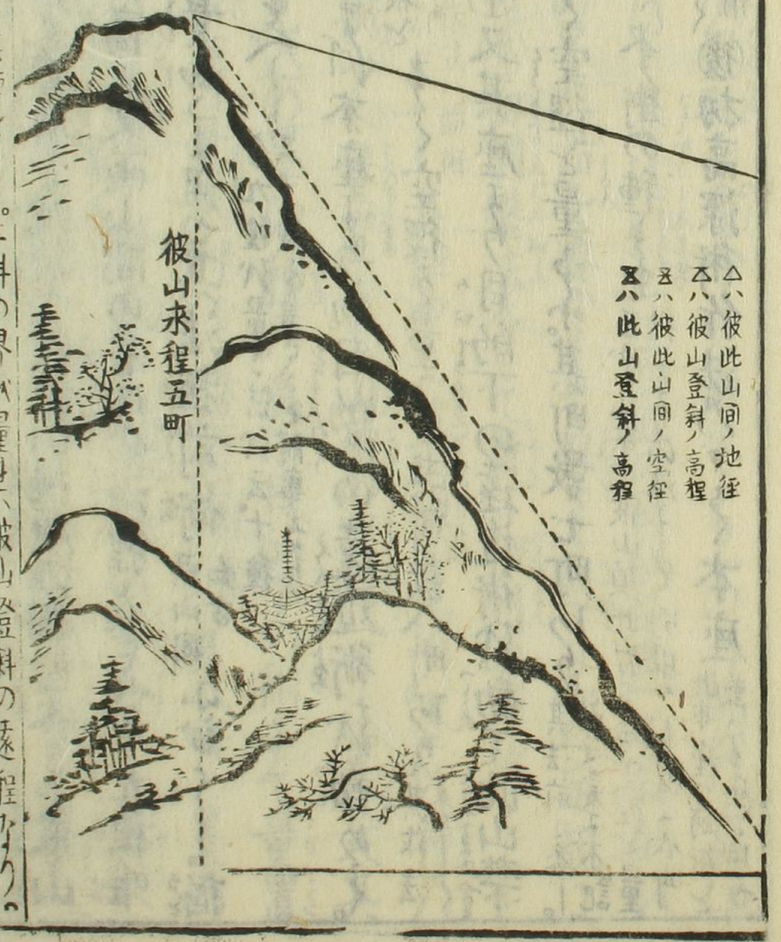
㊂後扨高深術作法の如く㊀本座に此本座ハ前術を勤むる座を用ゆ盤を直立に居盤北を上と盤南を下へ盤乾を會に居る事往々前に述べ定規に針を刺盤東より盤乾を會に

會に上斜に山頂山頂小目的有所を見込定規に隨ひ墨を引㊁次に其墨の盤東の端を要して下斜に山麓山麓小目的有べしを見込定規に隨ひ墨を引㊂扨專盤法を新に分間の矩此矩ハ渾発の口を用ひ一町の矩と名づく何も盤面の墨の長短に隨ひ新に分間を拘べし制なし委しくハ図に考合べし を設き其矩にて山頂の見込の墨を目的上の術に量置べし山頂の空徑八町量取山頂ハ見込の墨を此より彼ハ八町量取なり然して其殘余をハ剌捨て不用又山麓の見込の墨を目的下の術に量置べし山麓の空徑五町量取山麓ハ見込の墨を上より下へ五町量取なり然して其殘余をハ剌捨て不用其八町の留より五町の留へ斜に界を引又八町の留より五町の留へ正横に界を引又五町の留乃正横より右ハ盤東の端に八町の留の正下に界を引然して盤面大成と

今現に所の上斜の界ハ彼山登斜の縮なり正竪の界ハ彼山



求程（山心直立の高程）の縮なり。正横の界ハ、彼此山間の地徑なり。又短竪立の墨（盤東の中かと、短き竪の墨）、此山求程（山心直立の高程）の縮なり。上斜の墨ハ、彼山空徑の縮なり。下斜の墨ハ、此山登斜の縮なり。扨其上斜と下斜との墨を。八町と五町とを量取る。矩をゆく。正竪の界を量るに五夾有り。



一夾一町てなり五夾ハ即五町なり。是彼山求程（彼山心の直立）の町數なり。又其矩をゆく。短竪の界を量るに一夾半なり。二夾半ハ、即二町半なり。これ此山求程（此山心の直立）の町數なり（或ハまた其矩をゆく。正横の界を量るに彼山登斜の遠程なり。上斜の界を量るに彼山登斜の遠程なり。下斜の墨を量るに此山登斜の遠程なり。此術小事ゆえ盤尺を加入して量べし。少差を捨るハ大差となるべきなり）

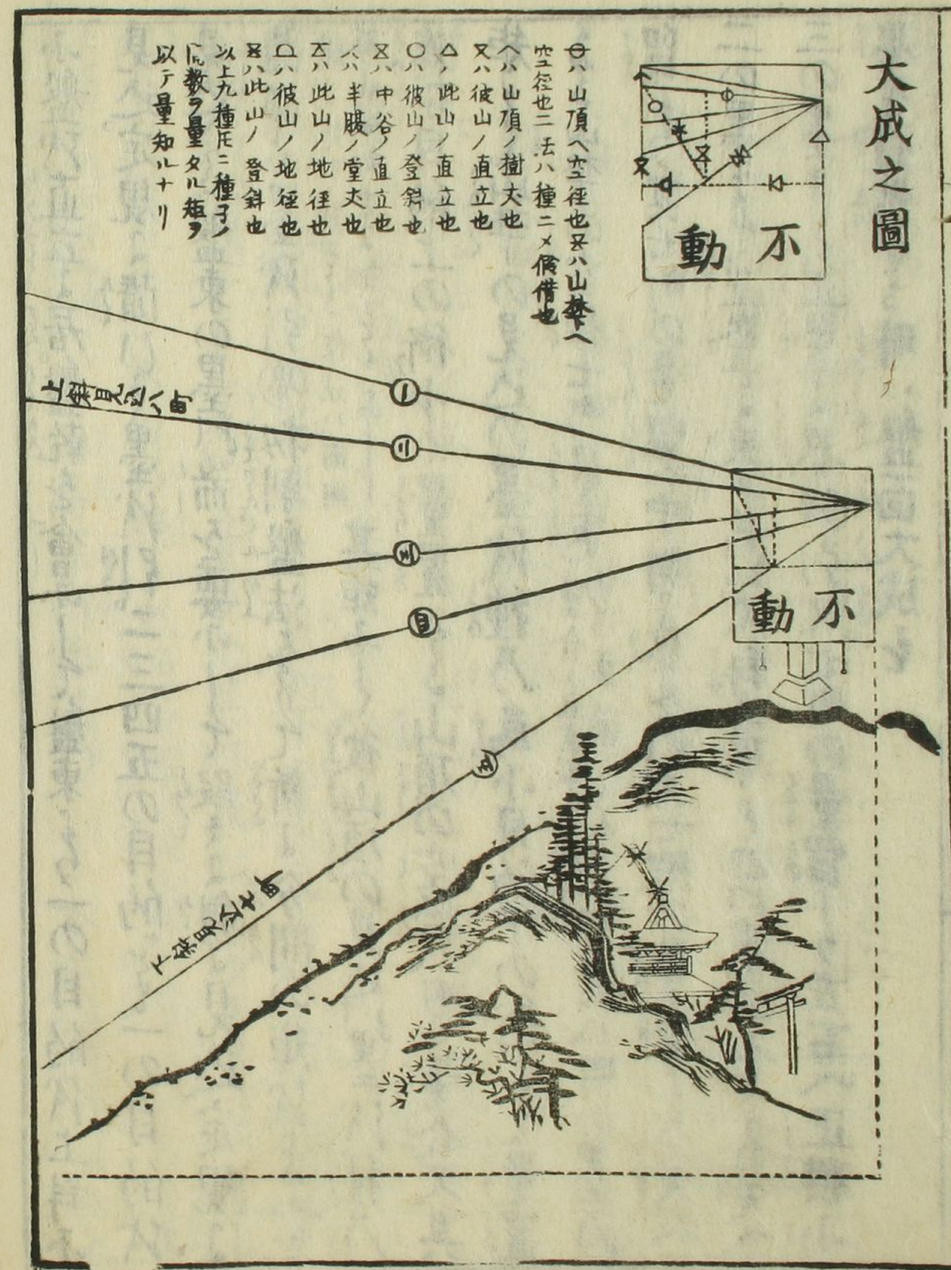
山谷數知方

此術ハ、此山の山頂ニ居て、彼山の高程と、登斜と、地徑と、又此山の高程と、登斜と、地徑と、又彼山絶頂の樹の丈と、彼山半腹の堂の高と、又兩山間の谷心の深程と、とをべて九種、唯一術をもて量知るに用ゆ。其法粗前術（兩山同知方）ハ、小ゝ異なり。猶勤て審ふべし（今九種ハ量る法ハ云ふ十種二十種を量ることを同事なり）

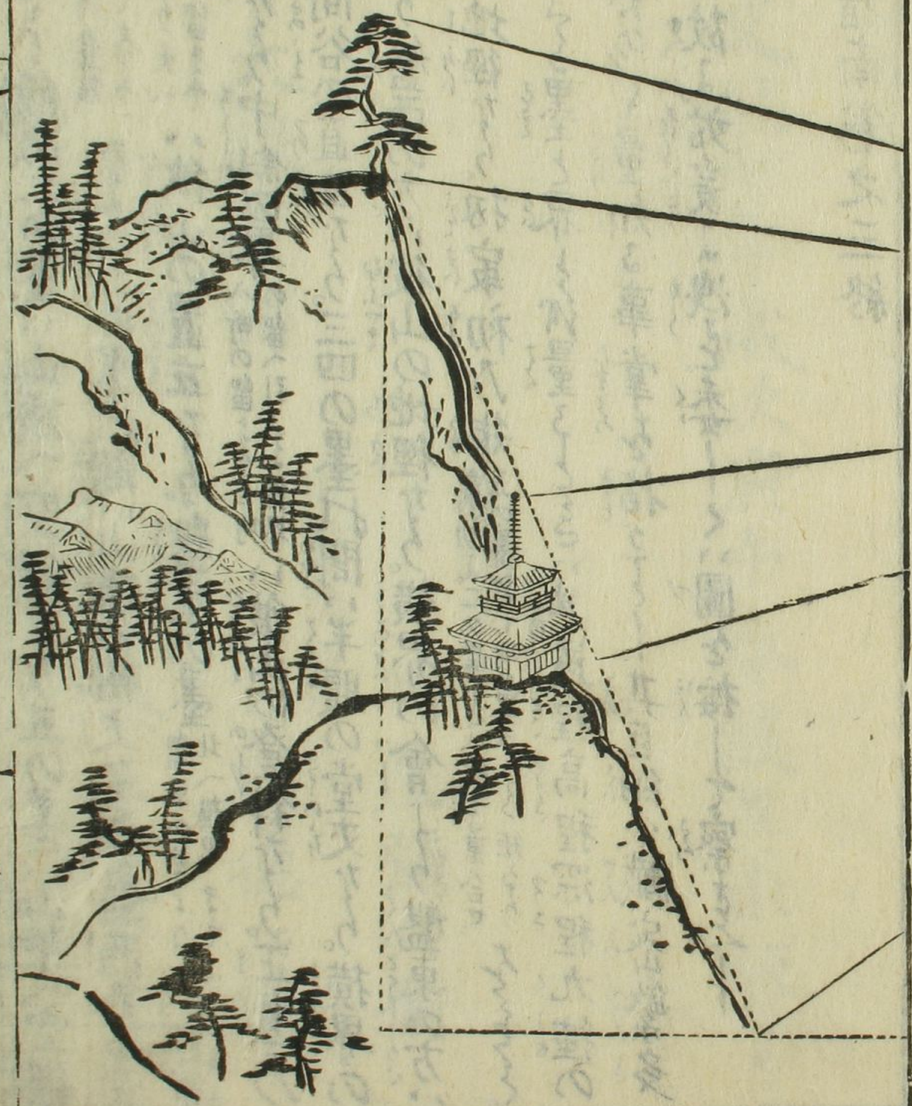
術云（下ニ図をもて云ふ所なり）まづ本座より（初）目的上の遠近術ハ勤めて、彼山頂（頂の樹の根を目的と為なり）まで空徑を量る。其町數八町ハ、（其作法委しく別巻ニハ、故ニ多ニ其術を不贅）（中）又其座より目的下の遠近術ハ勤て此山梵下（山梵下ハ目的有なり）まで空徑を量る。其町數七町ハ、（其法前ニ委し。故ニ多ニ不記）此兩空徑をもて本術の種とす。（右ハ、ハ兩ハ彼山頂、此山梵下、兩空徑を量得るまでの法なり。別用ニ、故ニ八町と七町との兩徑を得るなり。此盤面をハ不用）（後）扨高深術作法乃ち本座（此本座ハ前術を勤る座を用ゆ）

小盤ハ直立ニ居、盤乾を會ふして盤東より一の目的ハ上斜小見込、定規ニ隨ひて墨ハ引。二三四五の目的をも、一の目的ハ見込ニ、定規ニ隨ひて墨ハ引。（界）扨剳盤法をもて、新ニ分間の矩ハ、盤東の墨ハ、端を要ふして段々ニ斜ニ見込、定規ニ隨ひて墨ハ引。（新ニ矩を制する作法ハ、前術兩山同知方ニ記すなり）其矩ハ、彼山頂の見込ハ墨ハ種乃為小目的上の術ハ、量置する山頂の空徑八町ニ量合、又其矩ハ、山梵下の見込の墨ハ種乃為小目的下の術ハ、量置する山梵下の空徑七町量取。（量合と量取と別意なる事前ニ云ふなり）其八町の墨乃留より、其七町の量留へ中斜ニ界を引、又七町の量留より天へ二の墨まで正竪ニ界を引、又斜の界ハ四ハ墨の會より天へ三の墨まで正竪ニ界ハ引、又七町の量留より左右へ正横小界を引。然る時ハ、盤面大成を

大成之圖



㊀ハ山頂ヘ空徑也㊁ハ山麓ヘ空徑也二丟ハ種ニメ倚借也
㊂ハ山頂ノ樹丈也
㊃ハ彼山ノ直立也
㊄ノ此山ノ直立也
㊅ハ彼山ノ登斜也
㊆ハ中谷ノ直立也
㊇ハ半腰ノ堂丈也
㊈ハ此山ノ地徑也
㊉ハ彼山ノ地徑也
㊊ハ此山ノ登斜也
以上九種ニ種子ノ數ヲ量タル矩ヲ以テ量知ル十リ



今現る所の二の墨い山頂へ空徑なり。五の墨い山禁下へ空徑
又此山の登斜
なりを用るなり なり。二の墨れ間い山頂の樹丈なり。盤西乃墨
横界より天へ
斜界の留まで い彼山の置立なり。盤東の墨盤東の要より北へ横界まで、此山の
直立なり。中斜の界八町の留より七町の留へ引る斜界 い彼山の登斜なり。正竪乃
界い間谷の直立なり。三四の墨れ間い半腹の堂丈なり。横界の
會より盤西の方い彼山の地徑なり。横界の會より盤東の方い
此山の地徑なり。扨家初乃矩家初より二の墨を八町より量合せ。五の墨より七町量東へ矩うり をもとく。
現まる墨と界と以量るとき。其遠程高程深程九種の
求程。おの〳〵量知る事掌を指ごとし。其巨細い纎密繁多
なるゆえ故よ。姑爰に洩と柔しくい圖を按して察まべし

量地指南卷之三終

文化七年歳次庚午春穀旦求版

大阪書舗

高麗橋通 藤屋彌兵衛
心齋橋通 藤屋德兵衛
高麗橋通 藤屋善七